

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	西東京市下保谷2-4-2
園名	こまどり保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音って何だろう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日頃何気なく耳にしている様々な音。子どもたちは廊下の足音や物と物がぶつかった時の音、自然の中の何気ない音などに興味を示している姿が見られる。普段何気なく耳にしている音や、太鼓、楽器などいつもと違う音に興味、関心を持ち、音の違いや音によって変わる振動、また自分にとって心地よい音などがあることを経験し、様々な音に興味関心を広げていきたい。

2. 活動スケジュール

- ① 音を探してみよう (室内編)
ホールに集まり、音を探してみる
- ② 音を探してみよう (散歩先編)
園外に出て、様々な音を探してみる (道、公園)
- ③ 楽器を使って音を作ってみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ① ホールで丸くなり、それぞれの音の表現が聞き取りやすいようにする。(新聞紙、聴診器)
- ② 散歩に行く。(踏切を通る。落ち葉など自然に触れられる公園に行く。)
- ③ 色々な楽器に触れる(ミュージックパッド、トライアングル、ウッドブロック、鈴、カスタネット、鉄琴、タンバリン)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 身の回りにある音を出し合い、次に自分の体を使ってどんな音が出せるかを出し合う。物（新聞紙）を使って出る音、園内をめぐり聞こえてきた音を発表する。
- ② 公園までの道で聞こえる音（車、サイレン、電車、踏切）を出し合う。公園では、落ち葉を踏んでみる、鳥の声など音を探す。
- ③ 様々な楽器を実際に使用する。どんな音が出るか実感する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

- ① 自分の体から出る音（手をたたく、舌を鳴らす、手をこするなど）も様々ある。「くしゃみとか咳も音がするよ」と気付く姿が見られた。園内をめぐり、どんな音が聞こえるかを探す。給食室から聞こえる音にはどんな音があるか、保育室からはどんな音が聞こえるかなど、それぞれのグループに分かれて聞こえてきた音を伝え合う姿が見られた。最後に聴診器で自分の心臓の音を聞くと「ドクドク」「ドドド」などと聞こえた音を表現していた。
- ② 散歩中に聞こえてくる音もたくさんあることに気付く姿が見られた。（車の音、電車の音、サイレンの音など）「うるさいね」「風が吹くとシューって聞こえる」との声も聞かれた。公園では、落ち葉を踏んで出る音、鳥の鳴き声などを聞き「気持ちのいい音だね」と気持ちの良い音、そうでない音があることの気付きの声が聞かれた。
- ③ 色々な楽器で音を出してみる。ミュージックパッドでは、どこを踏むと良い音が出るかを探る姿が見られたり、トライアングルやウッドブロックでは力の入れ方によって、音が大きくなったり小さくなったりすることを発見する。また、どこから音が出ているのか、どうやったら音が出るのかを探る姿も見られた。みんなで音を出してみると音がたくさん鳴ってうるさく感じることに、何人かの友だちで合わせて音を出すと綺麗な音とすることも実感していた。「合わせてみよう。」と友だちに声を掛ける姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・音への関心が広がり、子どもは大人が音としてとらえていないような事象や感触も音としてとらえることができると気づき、子どもの感覚の柔軟性を感じることができた。
- ・子ども達の何気ない会話の中から出てきた事柄に対して、保育者がひとこと言葉を投げかけることにより、子ども達が自分達で興味を広げその事柄についてさらに内容を掘り下げて考えることができると感じた。
- ・保育者が、子ども達を感じた疑問や関心に目を向け、子ども達と一緒に考えていくことで、さらに子どもの探求心や協同性などを伸ばしていくことができるのではないかと感じた。